

6 課

8月9日

あし 葦の海を通して



安息日午後 8月2日

暗唱聖句

あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救^{すくい}を見なさい。きょう、あなたがたはエジプトびとを見るが、もはや永久に、二度と彼らを見ないであろう。主があなたがたのために戦われるから、あなたがたは黙^{もく}していなさい。(出エジプト記 14 : 13、14、口語訳)

恐れてはならない。落ち着いて、今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい。あなたたちは今日、エジプト人を見ているが、もう二度と、永久に彼らを見ることはない。主があなたたちのために戦われる。あなたたちは静かにしていなさい。(出エジプト記 14 : 13、14、新共同訳)

今週の聖句

出エジプト記 12 : 31～36、ヤコブ 2 : 17～20、出エジプト記 13 : 1～14 : 31、ヘブライ 11 : 22、出エジプト記 15 : 1～21、黙示録 15 : 2～4

今週のテーマ

出エジプトは、旧約聖書における神の民の最も劇的で輝かしい経験です。この出来事は、神がいかにヘブライ人の敵を打ち破り、イスラエルの人々を勝利の内に約束の地へ導かれたのかを示す聖なる見本です。それはまた、キリストにおける救いとあがないの象徴でもあります。

人間的に見れば、イスラエルの子らは絶望的で、不可能とさえ思える状況にあり、自力ではそこから抜け出すことはできませんでした。もし救われるとすれば、神の御業によらなければならなかったのです。私たちと罪についても同じです。私たちは自力では抜け出せない絶望的な状況にあります。出エジプト以上の劇的なことが必要なのです。そしてそれはすでに与えられました。それがキリストの十字架であり、キリストが成し遂げられたことです。

出エジプト記 12 章のイスラエルの出発から、15 章のモーセの歌までの出来事は、息をのむような信じがたい出来事です。神のしるし、奇跡、救いの御業が頂点に達しています。しかしそれらさえも、キリストが十字架で私たちのためになされたことには匹敵しません。その前兆に過ぎないのです。

過越の夜、血に覆われていない人々に神の裁きが下されました（出12：1～12）。身分、学歴、社会的地位、性別を理由に、逃れた人は誰もいません。罰は、ファラオから奴隷に至るまで、あらゆる家族と、動物の初子さえも撃ちました。エジプトの誇りは、地に落ちました。

問1 出エジプト記 12：31～36 を読んでください。ファラオは、イスラエルの人々が全員出発することを許可したにもかかわらず、どんな奇妙な要求をしましたか。なぜそんなことを願ったのでしょうか。

ファラオがヘブライ人に、「行って、主に仕えるがよい」と言った際に、「わたしをも祝福してもらいたい」という要求を付け加えたのは、なんと興味深いことでしょう。

「わたしをも祝福してもらいたい」……。

エジプトの王であり、自国民の間では地上の「神」である彼が、なぜそんなことを要求したのでしょうか。まるで、ヘブライの神の力をようやく理解し、その恩恵を受けたいと思っているかのようです。しかし、反逆、頑迷、罪、高慢に染まっている彼を、どうして神が祝福することがおできになるのでしょうか。確かに、彼は最終的に同意しましたが、それはヤハウェの御心への服従からではありませんでした。むしろ、それは敗北からでした。その後の行動を見ればわかるように、彼は悔い改めていませんでした。彼はただ、自分の王国を破壊しつつある荒廃を止めたかっただけなのです。

ファラオは恥をかかされ、最悪の災いによる悲劇的状况を考慮して、イスラエルがエジプトを去る許可を与えました。これまでずっと、彼の行為が自国民にどんな苦しみをもたらそうと許可しなかったことを、今や許可したのです。

そして当然のことながら、エジプトの民もヘブライ人が出て行くことを切望しました。出て行ってくれ、そうしないと「わたしたちは皆、死んでしまう」と、彼らが言ったとおりです。

一方、神は、イスラエルの人々が手ぶらでエジプトを去るのではなく、最終的に予想よりもずっと長くなる寄留に必要なものを持って出られるように、備えてくださいました。エジプト人がユダヤ人にこれらの貴重な品々を与えたのは、この民を急いで国外に追い出す一心からでしたが、その品々は、長らくイスラエルの人々に与えられなかった、何世紀にもわたる奴隷労働に対する報いでした。確かにエジプト人にとって、ヘブライ人を自分たちの土地から追い出すその代償は、十分に安かったのです。

約束された救いの時、つまり解放の時が訪れようとしていました。人々は準備する必要がありました。ただ信じるだけでなく、その信仰に基づいて行動する必要があったのです。神は彼らに、なすべきことを告げられました。信仰によって、彼らは今それを行う必要がありました。ヤコブが書いていることとはまったく異なる文脈ですが、この原則はよく当てはまります（ヤコ2：17～20）。「ああ、愚かな者よ、行いの伴わない信仰が役に立たない、ということを知りたいのか」（同2：20）。

問2 出エジプト記13：1～16を読んでください。イスラエル人の初子は、最後の災いの間、神の恵みによって生き延びました。なぜこの永続的な命令は与えられ、それは今日の私たちにとって、どんな意味があるのでしょうか。

神は、憐れみ深くも、血の下にあったイスラエル人の家族を守ってくださいました。彼らが信仰によって、家の入り口に印を付けていたからです。これらの新しい命令は、モーセを通して主から与えられました。「すべての初子を聖別してわたしにささげよ」（出13：2）。この律法は、動物だけでなく、人間にも当てはまりました。

この命令の背後にある一つの原則は、すべては神のものであるということです。なぜなら、神は私たちの創造主であり、すべてのものの所有者であるからです。「地とそこに満ちるもの／世界とそこに住むものは、主のもの」（詩編24：1）。「銀はわたしのもの、金もわたしのものと／万軍の主は言われる」（ハガ2：8）。イスラエルの人々の長子は、神が彼らに与えられた祝福の最初の実であるとともに、彼らが神にすべてをささげ、自分たちが所有するあらゆるものはただ神からもたらされたものであることを理解しているしるしでした。

私たちはここに、^{あがな}贖い、救いという考えも見ます。長子たちは、血に覆われていたために死を免れました。イエスの血の下にあるすべての人々と同様、彼らも死から救われました。パウロがイエスについて書いているように、「わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の^{ゆる}赦しを得ているのです」（コロ1：14）。

一方で、エジプトでの奴隷状態からの解放の祝いであるこの奉献をどのように行うかについて、規定が与えられました。動物の場合は、犠牲としてささげなければなりませんでした。長子の場合は、贖わねばなりませんでした（出13：12、13、15）。

問3 出エジプト記 13：17～14：12 を読んでください。イスラエルの人々がエジプトを出るとき、神は彼らをどのように導き、その後、どんなことが起こりましたか。

モーセに対する神の命令に従い、イスラエルの人々は、よく組織された軍隊としてエジプトを出ました。ヘブライ語の「ツァバー」や「マハネー」、つまり「部隊（軍団、軍勢）」や「陣」という用語は、そのことを証明しています（出6：26、7：4、12：17、41、51、14：19、20、さらに13：18と比較）。彼らは部隊に分かれて、軍隊のように行進したのです。のちにバラムは、イスラエルが「部族ごとに宿営している」（民24：2）のをモアブの丘から見ました。

一方、「モーセはヨセフの骨を携えて」（出13：19）いました。これは非常に重要な記述であり、神の約束に対するヨセフの信仰の成就を明らかにしています。ヨセフは、エジプトの栄華と特権の中にありながらも、約束の地を決して見失うことはありませんでした。彼は自分の骨をカナンの地に持って行くように求めました（創50：24、25）。彼は、主がかつて誓われたとおり、必ずエジプトにいるイスラエルの民のもとを訪れ、彼らをその地に導いてくださると信じていたのです（ヘブ11：22）。イスラエルがカナンに到着すると、ヨセフの骨は、「シケムの野の一画に埋葬され」（ヨシュ24：32）しました。

雲の柱と火の柱は、神がご自分の民の中におられることの目に見えるしるしでした。主はそこに住み、雲からも語られました（出14：24、民12：5、6）。

一方、ファラオは、自らの本当の動機を明らかにします。彼は改心しておらず、真に悔いていませんでした。彼が神に祝福を求めたのは茶番であり、おそらく彼自身の心の中の欺瞞きまんでした。彼は軍隊を集め、逃亡した奴隷たちを追いました。実際、罪によって完全に目がくらんでいたのです。

ファラオの軍隊がやって来るのを見たとき、民は言葉を発し、一度ならず繰り返すことになる感情をあらわしました。「我々を連れ出したのは、エジプトに墓がないからですか。荒れ野で死なせるためですか。一体、何をするためにエジプトから導き出したのですか」（出14：11）。

つまり、自分たちの初子が救われることなど、神の力の劇的なあらわれをすでに見ていたにもかかわらず、民は驚くべき信仰の欠如を見せたのです。

あなたがひどい状況に直面したときのことを思い出してください。あなたの最初の反応は、神への信仰でしたか、それとも信仰の欠如でしたか。そこで、次に同じようなことが起こったときに備えて、どんな教訓を学ぶべきでしたか。

問4 出エジプト記14:13~31を読んでください。イスラエルの子らの信仰の欠如にもかかわらず、神は彼らにどんなことをしてくださいましたか。

モーセは、神と神の言葉を心から信頼していたので、民を励ましました。彼は、困難な状況でいかに行動すべきかについて、四つのポイントを示しています。

- ①「恐れてはならない」(出14:13) ——最初の訴えは、主を信頼することです。そうすることによってのみ、恐れは克服できるからです。イザヤは、信じる者は神の御手の中にあり、神は彼らのために行動してくださると述べています。「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。……わたしは主、あなたの神。あなたの右の手を固く取って言う／恐れるな、わたしはあなたを助ける」(イザ41:10、13)。
- ②「落ち着いて(いなさい)」(出14:13) ——「落ち着く」とは、不平を言うのをやめ、すばらしいことを期待するという意味だけでなく、神を信頼し、神の介入を忍耐強く待つということです。神は行動されるからです。
- ③「今日、あなたたちのために行われる主の救いを見なさい」(出14:13) ——信仰が成長するためには、神の指導力と助けを信じ、神が約束された支援に感謝することが重要です。「見る」とは、(信仰の)目を開くことを意味します。勝利、安全、救いを与えることがおできになるのは、神だけです。神は、いつも私たちの味方であり、必要なものを適切な時に与えてくださいます。
- ④「主があなたたちのために戦われる」(出14:14) ——この聖句は、神がなさることを指摘しています。神は、ご自分の民のために自ら戦われるのです。カルバリーは、この事実の究極の証拠です。なぜなら、キリストは私たちに永遠の命を与えるために、十字架の上でサタンを打ち負かされたからです(ヨハ5:24、ヘブ2:14、黙12:10、11)。のちにエジプト人でさえ、主がイスラエルの人々のために戦っておられることを認めました(出14:25)。

モーセに対する神の命令は、明白でした。それは、「先に進め」です。神は、ご自分の計画を段階的に明らかにされました。(1) 神の天使と雲の柱がイスラエルの部隊の前から移動して後ろに立ち、エジプト軍から彼らを守りました。(2) 信仰によって、モーセは海の上に手を差し伸べねばなりませんでした。(3) 主は水を分け、強風で水を乾かされました。(4) その結果、イスラエルの人々は、乾いた土の上を対岸へと安全に海を渡りました。エジプト人は、神がご自分の民のために並外れたことを行っておられることに気づけなかったのです、やみくもに彼らを追いました。つまり、出エジプト記14:25の彼らの告白が明らかにしているように、彼らは手遅れになるまで気づけなかったのです。

エジプト軍はすべて^{あし}葦の海に投げ込まれ、ファラオを含めて、誰も生き残れませんでした（詩編136：15参照）。それは、エジプト人にとっては驚くべき敗北であり、神の民にとっては完全な勝利でした。ユダヤ人の歴史を通してずっと、今日に至るまで、彼らがこの話を語り継いでいるのも不思議ではありません。

問5 出エジプト記15：1～21を読んでください。モーセの歌の内容は、どのようなものですか。

この歌は主を賛美しています。なぜなら、主がご自分の民に敵対する者たちを打ち破られた力強い戦士だからです。モーセは、彼の神であられる主が彼の力であり、歌であり、救いであることを強調することで、この主題について個人的に詳しく述べています。「主よ……あなたのような方が誰かあるでしょうか。誰か、あなたのように聖において輝き／ほむべき御業によって畏れられ／くすしき御業を行う方があるでしょうか」（出15：11）。

モーセの歌は、神について、つまり神がどのような方で、何をしておられるかについて歌っています。主は、ご自分の民に対する卓越した働きゆえに^{たた}称えられ、賛美されています。感謝と礼拝は、私たちに対する神の憐れみのゆえに自然に生じる結果なのです。神の愛に感謝することは、生き生きとした霊的生活の前提条件です。神の揺るぎない愛が特に強調され、賛美されるのは、神があがなわれた民を導き、聖なる安住の地へ案内してくださるからです。モーセは、神が^{しやうりやう}嗣業の山に聖所を建てられると預言していますが（出15：17）、すべてはシオンとエルサレムの神殿を指し示しています。

黙示録15：2～4では、あがなわれた者たちがモーセの歌と小羊の歌を歌っています。神の偉大で驚くべき御業のゆえの神への賛美、神の正しく真実な裁きのゆえの神への賛美、そして神の公正な行為と神聖さのゆえのこの賛美が、天国でどのように聞こえるか、あなたは想像できるでしょうか。

歌の最後の部分に注目してください。「すべての国民が、来て、あなたの前にひれ伏すでしょう。あなたの正しい裁きが、明らかになったからです」。つまり、神の裁きのすべて、とりわけ何千年もの間、罰せられてこなかった悪や抑圧に対する神の裁きがすべて明らかにされたとき、諸国のあがなわれた人々は、それらの裁きのゆえに神を賛美するのです。

参考資料として、『人類のあけぼの』第25章「エジプト脱出」を読んでください。

神は、イスラエルの人々の信仰が薄かったにもかかわらず、彼らに味方されました。神に選ばれた民として、いかに考え、いかに行動すべきかを教え、導こうとされたのです。神は彼らを忍耐強く導き、困難に遭遇することが少ない場所に案内していただきました。エレン・ホワイトは、次のように説明しています。「イスラエル人は、……神に関してほとんど知識を持っておらず、信仰も弱かったので恐怖に襲われ、心がくじけてしまったことであろう。彼らは、武器もなく、戦いにも慣れておらず、長い束縛によって心がくじかれていた。その上、女、子供、羊、牛などを引き連れていた。主は彼らを紅海に行く道にお導きになって、ご自分が裁きの神であると同時に、憐れみの神であることをあらわされた」（『希望への光』142ページ、『人類のあけぼの』第25章）。

モーセの歌について、『アンドリュース聖書注解』は、次のように述べています。「歴史における神のこのあがないの行為が確かなものであることは、私たちが将来に対して、何の不安もないことを保証している。最後のスタンザは、カナンを征服する際に直面するであろう未来の敵に焦点を合わせている。神の力強い『御腕』のゆえに、彼らは『石のように黙（する）』（16節）のだ。私たちが何か不可能に直面し、追い詰められ、どちらに向かえばよいのかわからなくなったとき、『モーセの歌』に確信を見いだすことができる。なぜなら、この歌は、神の民の歴史における偉大な出来事を記念しているからだ」（『アンドリュース聖書注解——旧約聖書「出エジプト記」214ページ、英文）。

話し合いのための質問

- ① なぜ私たちは、劇的な方法で救い出されたあとで、^{あし}葦の海に挑む前のヘブライ人のような状態に、しばしば陥ってしまうのでしょうか。つまり、神の憐れみと神の力を示す多くの証拠があるにもかかわらず、なぜ私たちはいとも簡単に信仰の欠如を示し、さらにはそれを言いあらわしてしまうのですか。
- ② 初子の死を含め、あらゆることが起こったあとでさえも、なぜファラオはイスラエルを追い続けたのでしょうか。このことから、私たちの誰もが罪によって（あるいは、罪を犯すことによって）心がかたくなになることがいかに危険であるかについて、何を学ぶことができますか。
- ③ 私たちはみな、恐ろしい試練に直面することがあります。しかし、多くの場合、平穏な日々を送っています。私たちは「敵」の領域に住んでいるのですから、このような日々を、神の恵みと守りの証拠と見なすべきではないのでしょうか。つまり、私たちは日々、神を賛美するべきではないのでしょうか。